

# 新しい文学を生んだ作家たち

明治の文学は、西洋の文学の影響を受けて、日本の伝統をだいにしたり、まったく新しい考えだったり、さまざまな種類が生まれた。明治維新のあと、文化の中心地だった日本橋・銀座の辺りには、たくさんの芸術家や文学者が集まっていた。

鉄道(→p.84)が  
開通したあとの銀座は、  
東京でいちばん  
にぎわいはじめたのよ。

## <西洋の文化に影響を受けた>



カフェ・プランタン  
クラシックやダンスの洋楽をかけ、洋酒や洋食もあついていた。店内の壁には、客がかいた似顔絵や落書きが残り、パリのカフェのような雰囲気をつくっていた。

1911(明治44)年、カフェ・プランタンが京橋区目吉町(現・銀座八丁目)につくられた。日本ではじめてのカフェで、松山省三という画家が、友人の画家・平岡権八郎とともに、パリのカフェをまねて開業したもの。北原白秋や永井荷風という文学者たちや、黒田清輝や岡田三郎助という芸術家たちなどに、話し合いの場として親しまれた。カフェは新しい社交場として、明治から昭和にかけて、その数を増やしていった。

## 東京にいてパリの雰囲気を楽しんだ

明治の末ころ、東京をパリに、隅田川をセーヌ川に見立てて、隅田川に近い日本橋辺りの西洋料理店(メゾン鴻の巣など)に、西洋帰りで西洋の考えかたをもった文学者や芸術家が集まって、「パンの会」をつくった。パリにいる気分で食事を楽しみ、文学について語り合った。



パンの会  
メンバーには、文学者の北原白秋や永井荷風、木下幸太郎、美術家の石井柏亭や山本鼎などがいた。文学と美術の交流を目的として結成された会で、寄り合いの場として知られていた。

カフェとは、日本の喫茶店のようなもので、  
コーヒーを飲んだり  
軽い食事ができたのよ。

カフェでの客への  
もてなしは、女給と  
よばれる女性店員が  
行ったんだって。

## 美術と交流した文学

永井荷風や北原白秋と交流のあった谷崎潤一郎は、カフェ・プランタンに通い、パンの会にも参加していた。美術と文学の交流を深めて、「美」を目的とした耽美派という種類の作品を紹介した。

画像は  
非公開です。

谷崎潤一郎  
(1886~1965)  
明治の末ころから昭和にかけて活躍した小説家。日本橋区蛸殻町(現・日本橋人形町)生まれ。代表作は『刺青』『秘密』『細雪』など。

## 自由を求める文学

時代の変化と共に人々の意識にも変化が生まれた。支配的な世のなかから、自分自身を開放して自由を求めるというロマン主義の考えの文学が生まれ、詩や評論が発表された。



「文学界」  
1893(明治26)年創刊の雑誌。北村透谷、島崎藤村などが文章を書いた。人生論、生きかたについての考えかたが発表された。

北村透谷(1868~1894)  
明治時代の評論家、詩人。神奈川県生まれ。1881(明治14)年に京橋区弥左衛門町(現・銀座四丁目)に転居し、泰明小学校を卒業した。

画像は  
非公開です。

島崎藤村(1872~1943)  
明治から昭和のはじめにかけて活躍した詩人、小説家。長野県生まれ。1881(明治14)年に上京し、京橋区鐘屋町(現・銀座三~四丁目)に住み泰明小学校に通った。

近代化が進み、  
人々の意識も  
変わって  
いったんだね。

島崎藤村は、  
北村透谷に影響を  
受けたらしいわ。

## 女性の文学者が活躍した

明治から昭和にかけて活躍した長谷川時雨は、昭和に入ったころ、女性作家の発掘・育成と、女性の地位向上を目指し、雑誌「女人芸術」を創刊した。



長谷川時雨(1879~1941)  
明治から昭和のはじめにかけて活躍した劇作家。日本橋区通油町(現・日本橋大伝馬町)生まれ。

「女人芸術」  
1928(昭和3)年創刊の雑誌。大正デモクラシー(→p.102)の時代のあとに、女性の手によって、女性のために出された文芸雑誌。多くの女性文学者が、この雑誌から活躍の場を広げていった。

画像は  
非公開です。

長谷川かな女  
(1887~1969)  
大正から昭和にかけて活躍した俳人。日本橋区本石町(現・日本橋本石町)生まれ。「女人芸術」に作品を発表した。

長谷川時雨や  
長谷川かな女は、  
女性運動を行ったんだ。

## 現実を見直した文学

理性と知恵をある優れた技術で、理想や空想をやめて現実を見直そうとする新技巧派の考えの文学が生まれた。芥川龍之介は新技巧派の文学者で古典から題材をとった作品で人気を集めた。

芥川龍之介  
(1892~1927)  
明治から大正にかけて活躍した小説家。京橋区入船町(現・明石町)生まれ。代表作は『羅生門』『鼻』など。

中央区ゆかりの  
文学者って、  
たくさんいるんだね。

## 自分の感情を歌った文学

詩人個人のもの見かたや感じかたを読者に伝える叙情詩が生まれた。立原道造は叙情詩の中心的存在として活躍し、自分の内面的な世界や感情を伝えようとした。

立原道造  
(1914~1939)  
昭和のはじめころに活躍した詩人。日本橋区橋町(現・東日本橋)生まれ。代表作は、詩集『萱草に寄す』『暁と夕の詩』などがある。

立原道造は  
24歳の若さで  
亡くなって  
しまったん  
だって。